

製造業の「業界の景況」DIが大幅に悪化

各項目のDIの動き（前月比）（😊 好転 🟢 不変 😞 悪化）

<p>2月の情報連絡員報告によると、製造業の業界の景況DI（前年同月比）値が大幅に悪化（23ポイント）した。また、悪化が続いていた収益状況は製造業、非製造業ともに若干だが好転した。売上高は製造業は前月と同値、非製造業は若干好転した。</p> <p>「業界の声」からは改正建築基準法の影響と原油価格高騰に伴う原材料等の値上げによる収益の圧迫に関する報告が多く、また、前月に続き古紙混入率の偽装問題の影響に関する報告がよせられた。</p> <p>【製造業64人、非製造業86人、計150人の集計】</p>	全 体	製 造 業	非製造業	
	売上高	-34.7 😊	-29.7 🟢	-38.4 😊
	在庫数量	-12.8 😞	-10.9 😞	-14.8 😞
	販売価格	-5.3 😞	-14.1 😞	1.2 😊
	取引条件	-26.7 😞	-32.8 😞	-22.1 😊
	収益状況	-48.7 😊	-45.3 😊	-51.2 😊
	資金繰り	-33.3 😊	-29.7 😊	-36.0 😞
	設備操業度	-35.9 😞	-35.9 😞	
	雇用人員	-18.0 😞	-14.1 🟢	-20.9 😞
	業界の景況	-54.7 😞	-61.0 😞	-50.0 😊

✓ 行政庁・中央会に対する主な要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
繊維・同製品	帆布製品製造業	建築確認がおりず、内装・外装を含め、景況は回復していない。1日も早く許可を出してもらいたい。行政の判断が中小企業の運命をにぎっているのではないか。
鉄鋼・金属	電気めっき業	資材・原油価格の安定。セーフティネット貸付・保証対策業種追加指定。
	建設用金属製品製造業	原材料の高騰は中小の企業努力ではどうにもならないところまできている。なんとかしてほしい。
小売業	酒類小売業	酒の販売場が多すぎると思う。致酔性のある酒が一般商品とみることができるか、社会的に再認識願いたい。

平成20年
2月

業 界 の 声



製 造 業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
繊維・同製品	製粉業	今後も国際相場の高騰が続くという見通しのなかで、原料コストの増加を価格転嫁することが不可欠となった。中小業者が新しい制度へ対応するには大手と組むか、独自路線、中小連合かといわれている。
	織物製外衣・シャツ製造業	工場数の激減のため、おおむね各工場とも仕事量はあるが、4月以降の受注不安。業界全体ではますます縮小傾向にある。自主廃業が昨年から目立ってきた。
	繊維製品製造業	諸物価高騰のあおりからか、消費が低迷してきており景況が悪化している。組合員は原材料の値上げ分を出荷価格に転嫁できず、業界の景況感も悪化の一途をたどっている。
	織物業	全ての商品が値上げの傾向にあるため、高級品のネクタイが買い控えられている感じで売上は減少している。
木材・木製品	帽子製造業	今年は昨年に比べてかなり寒く、防寒商品・ニット商品が売れた。春から初夏物に買いが入り順調に推移している。国産品に飛びつきがよく、販売価格に上昇がみられた。
	建具製造業	原材料の高騰が相次いでおり、経営は極めて悪い。建築基準法改正による混乱の余波が残り、今後の見通しも悪いという意見が多い。
化学・ゴム	塗料製造業	船舶、構造物、自動車の分野は一応好調だが、建築外装、機械金属、木工等の分野は軒並み低迷している。暦年での売上は横ばいの状況。原油高が続いており、今年は各メーカーとも適正価格の改訂・維持等をめざし、正念場を迎えている。
窯業・土石製品	コンクリート製造業	改正建築基準法の影響による出荷の落ち込みは月を追うごとに大きくなっている。
	コンクリート製品製造業	公共工事の減少に加え、セメントの在庫切れというダブルパンチで散々だった。本来ならば需要期のはずだが、需要減少による停滞で今後の閑散期に向けての資金繰りその他への影響がますます懸念される。
鉄鋼・金属	電気めっき業	小規模企業ほど採算状況、資金繰りが厳しい。組合員間の格差が拡大する状況が続いている。原材料価格は高止まりが続き、自助努力も限界にきている。
	鋳物製造業	高値傾向であった原材料・副資材が4月より大幅な値上げをされる動きがあり、今後はますます経営を圧迫するものとみられる。
	金属熱処理業	最近の大きな問題は燃料や運賃の値上りをユーザーへ転嫁できないこと。かなり強く値上げを要求しているが、なかなか通らない。収益への影響を懸念している。
輸送用機器	自動車部品製造業	材料費、燃料費、運賃等の値上げがジワジワと収益の悪化に影響している。
その他製造	紙製品製造業	紙の古紙配合率問題へ業界全体で対応している中、再生樹脂の配合率偽装が発覚、文具類へ波及している様子。業界では対応に想定外の労力と費用を要して経営が圧迫されている。
	スポーツ用品製造業	今年の冬は降雪に恵まれたものの、個人の消費を押し上げるまでにはいたらなかった。
	鉛筆製造業	新学期用品の最後のかけ込みがあり、生産・出荷ともに増加。
	ガス圧接業	建築確認の遅れの影響により受注単価が下落しはじめた。資金繰りも悪化しつつあり、今後はより深刻な問題となる。

平成20年
2月

業 界 の 声



非 製 造 業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸 売 業	建材資材卸売業	共同購買事業の実績は前年比95%と相対的に低調である。前月よりは若干動きがでてきたが弱い。改正建築基準法と原油高の影響がまだあるようだ。
	洋紙卸売業	古紙配合率問題に端を発し、全ての再生紙について調査が実施された。春の需要にも影響がではじめている。
	電線卸売業	銅価がまたじりじりと上昇してきており、2月の初めはトンあたり82万円から94万円と大幅な変化があった。素早い対応が必須である。
	織物卸売業	寒気が戻り、業況回復のきざしがあるものの消費意欲は落ち込んだまま販売高は好転しないまま推移している。
	管工機材卸売業	建築基準法改正の影響が拡大してきている。当業界の場合は建材業よりタイムラグがあり、今後さらに拡大すると思われる。
	木材卸売業	前月に続き、荷動きは低調。季節性もあるが需要が回復しないことが大きい。
	電設資材卸売業	建築着工減により需要細る。競争が激化している。原材料の高騰による製品の値上げが続き、一方価格転嫁は非常に困難な状況。
	玩具卸売業	テレビゲーム関連の売上が大きく落ち込み、昨年を大幅に下回った。しかし一部のキャラクター商品や新製品の健闘で利益率では上回った店もあり、品揃えが結果を分けることになった。
小 売 業	木材小売業	建築基準法改正の影響も一段落ついた感がある。全般的に若干ながら好転のきざしもみえる。外材の品薄状態が懸念材料である。
	野菜・果実小売業	2月は雪とかんばつにより天候不順で野菜類全般が高騰した。
	野菜・果実小売業	消費者が中国産等の輸入野菜に対して非常に関心を示し、国内産野菜を指定して買う動きがでている。
	自転車小売業	暖冬の昨年にくらべ天候が悪く、来店数が減少。各メーカーとも値上りをしているが販売価格に転嫁できず、収益悪化。
	豆腐小売業	中堅や大手産工場が今のように原材料高騰で赤字覚悟の市場競争を続け、そのあおりで苦しんでいるのが町の豆腐屋。大手の過剰生産には問題ないだろうか。
	包装材料小売業	相変わらずの値上げの連続で、状況が非常に厳しくなっている。特にポリエステル関係が品不足の状況になっており懸念されている。
	化粧品小売業	売上は例年と同じくらいだが、取引条件についてはメーカー各社が新年度から大幅に改訂する様子なので、一段ときびしい売上に比較して仕入が増加し、収益は悪化。
	古書籍小売業	古書業界では全集本の値段が極端に安くなっている。住居のスペースを占有するような本を購入しないからで、どんなに安くても見向きもされない。また一般書といわれる小説本や文庫本等も大型チェーン店の影響で「売れない」という組合員の嘆きになっている。
	二輪自動車小売業	駐車違反取り締り強化が大きな問題となっている。都市周辺では二輪車を手放すユーザーも増え、売上は激減している。このままいけばユーザーの二輪車離れ、販売店の廃業、業界の縮小は目にみえている。
	文具小売業	再生紙の偽装問題に関連した再生PPC用紙の問い合わせが一段落した模様。しかし、再生紙基準が未だ定まらず、メーカーから白色度70%の商品が入荷せず、供給できないのが現状。問題の決着はいつになるか不透明である。
	ペット小売業	数年来業界の景況は変わらない。好転する状況になく、ときおり報じられる高病原性鳥インフルエンザがネックになっているようだ。
電気機械器具小売業	2月から4月の春のキャンペーンがスタートした。売上高は対前年で微増。商品ではエアコンが大幅増加、AV商品は減少。調理・家事商品は増加している。	
商 店 街	赤坂一ツ木	中国産冷凍餃子問題後、外食飲食店の客の減少が目立つ。中国製衣料(特にニット製品)に客離れが目立つ。
サービス業	洗 濯 業	クリーニング業界では2月の落ち込みが顕著である。暖くなる春の繁忙期に期待しているが、原油高騰等で様々な生活必需品が値上りし、家計を圧迫している。
建 設 業	基礎工事業	建築確認申請の審査遅延の影響が大いに出てきた。原材料の高騰による資材の手配・支給の品薄感で工程・工期がずれこんでいる。
	鉄 筋 業	建築確認遅延の影響が改善されていない。工事着工が遅れ、動いている現場が極端に少ない。
運 送 業	貨物自動車運送業	1月に続き、2月も低調な荷動きに終わった。経済事業の低迷に伴い、組合自身の運営も厳しくなっている。